

月刊『Clinical Engineering』 へのメッセージ



概要

月刊『Clinical Engineering』は、お陰様で 1990 年の創刊から 30 周年を迎えました。記念して本コーナーでは今回、川崎忠行先生〔(公社) 日本臨床工学技士会 名誉会長、(一財) 臨床工学国際推進財団 理事長〕よりメッセージを寄せていただきました。

川崎忠行 KAWASAKI, Tadayuki

公益社団法人日本臨床工学技士会 名誉会長
一般財団法人臨床工学国際推進財団 理事長

初めて臨床工学技士が誕生した翌年の 1990 年に、月刊『Clinical Engineering』が創刊されました。

本誌がこの 30 年間に果たした功績は大きいものです。臨床工学技士は、医師の指示の下に、人の呼吸・循環・代謝を代替する生命維持管理装置の操作及び保守点検を業とする者と定義されています(臨床工学技士法)が、当初、これらの業務はそれぞれ別に発展してきた歴史的な背景があります。本誌は、法律はできたが互いの理解を促す専門誌として、また、臨床現場において活躍する臨床工学技士の知識や技能の習得に多大に貢献してきましたこと、関係各位に深謝申し上げます。

いま、わが国は超高齢社会の到来を迎えて、地域医療・福祉の新たな仕組みの推進や、医師、看護師、臨床工学技士などの医療職間でのワークシフトやワークシェアに関する検討が進んでいるところです。これを機に、さらなる医療貢献のための臨床工学技士制度の見直しが急務です。また並行して、臨床工学技士養成カリキュラムを改正し、AI や IoT などの情報工学や不整脈治療技術学など、そして病院実習の拡充が求められます。

さらに海外に目を向けると、中華人民共和国では、透析患者数がすでに 50 万人を超え、わが国の臨床工学技士制度を法制化する動きがあります。ミャンマー連邦共和国では、ヤンゴン医療技術大学にて ME 育成プロジェクトがわが国の支援で進んでおります。その他にも、インドネシア共和国、フィリピン共和国、ケニア共和国、タンザニア連合共和国などからも日本式臨床工学技士育成についての支援依頼がきており、わが国の臨床工学技士へ期待が寄せられております。

最後に、本誌が、すべての臨床工学技士に愛される専門誌として発展することを祈念します。